

“ホテル化”問屋街に新風

アートカルチャーの発信地となっている熊本市中央区河原町の繊維問屋街で、崇城大卒業生らが「ホテル化計画」を進めている。クラウドファンディングで出資を募り、出資者が「共同支配人」となるユニークな試み。旅の拠点となるゲストハウスをつくり、問屋街に新風を吹かせようと意気込んでいる。



崇城大卒業生3人



河原町にゲストハウスをつくる計画を進める（左から）三城賢士さん、上野和久さん、池田親生さんの3人。クリエイターが集まる独特な雰囲気の通りに新たな活気を生み出す。熊本市中央区

ネット通じ出資
「共同支配人」に

河原町 年内オープンへ



戦後の闇市から発展した問屋街。電車通りから一步入った路地は雑居ビルに囲まれ、昭和の趣を色濃く残す。ノスタルジックな雰囲気、クリエーティブな人たちに受け、アトリエやカフェなど若者向けの店が並ぶエリアへと変貌した。

ホテル化計画を進めるのは、いずれも崇城大（旧熊本工業大）の卒業生で、問屋街でカフェバーを営む上野和久さん（42）と、竹あかりプロデュースを手掛ける「ちかけん」の池田親生さん（33）、三城賢士さん（32）の3人。土地にパワーを感じた」と河原町の魅力にほれ込み、人が集まれる場所をつくらうと思った。

名前はずばり「カワラマチホテル」。上野さんのカフェバー向かいの空き店舗を改装。宿泊人員10人でシャワー、トイレ、共有キッチンを用意。10月中の着工、年内オープンを目指す。

池田さんは「資金がない若者でも、クラウドファンディングを使えば起業できることを示せた」と胸を張る。「世界中から人が集まり、クリエーティブな空間と熊本の魅力に触れてほしい。ここから熊本を盛り上げていきたい」と意気込んでいる。（福井一基）

て手続きを進めている。約1千万円と見積もる開業資金は、協賛金と銀行からの融資のほか、企画案をインターネット上でプレゼンテーションし、出資を募るクラウドファンディングを利用。4日で目標額の100万円を突破し、最終的に167万円を集めた。

出資者の反応は事業の成否を占う指標になるだけに、上野さんは「面白い企画だと受け止めてもらえた」と手応えを感じている。

出資は3千円、5千円、1万円、10万円の4通り。1万円以上には「共同支配人」として名刺を届ける。宿泊優待券（500円）やドリンクサービスなどを用意するが、「支配人として偉ぶれるのが何よりの特典」と池田さん。「合コン」などで有効に使ってほしい」とアピールする。